

障害者等のデジタル活用を支援する人材の育成と啓発活動

事業報告書

2024年4月1日～2025年3月31日

一般社団法人日本支援技術協会

目次

A.事業内容	3
事業内容 1.....	3
実績	3
実施した事業詳細.....	3
事業内容 2	4
実績	4
実施した事業詳細.....	5
事業内容 3	6
実績	6
実施した事業詳細.....	6
事業内容 4	7
実施した事業詳細.....	7
事業目標と結果	9
事業実施によって得られた成果	9
新たな課題と対応策.....	10

A.事業内容

1.デジタルアクセシビリティ環境向上のための渉外活動と啓発活動

■ 実績

- (1) 時期：2024 年 4 月～2025 年 3 月
- (2) 内容：各業界団体・企業へのアプローチ、デジタルアクセシビリティ啓発動画制作、DAA プロモーション動画・冊子制作、展示会出展（バリアフリー展、国際福祉機器展、日本作業療法学会）、フォーラムの開催

■ 実施した事業詳細

ターゲットとしていた全ての分野にアプローチできた。社会がアクセシビリティへの関心の高まらせていること、法定雇用率の引き上げに悩む民間企業などを背景に、昨年度から継続的に本事業を実施したからこそ得られたコネクションを有機的に利用できたことが成功の要因。

● 各業界団体・企業へのアプローチ

- ・ **教育分野**：国立高等専門学校 19 校が参加する KOSEN-AT ネットワークを通じて告知し、内、7 校でローカル試験を実施した。
- ・ **特別支援教育分野**：日本特殊教育学会や東京都特別支援学校情報教育研究協議会での情報共有をおこなった。また、障害学生支援をおこなう AHEAD や東京大学 PHED、京都大学の HEAP に参加し情報共有をおこなった。
- ・ **医療分野**：日本作業療法士協会が全国の会員 6 万 3 千名に宛てて本認定事業の情報を周知するために、2 時間の特別研修会を実施した。
- ・ **職場適応援助者分野**：日本障害者雇用担当者協議会に参加し毎月実施される定例会に参加し認定制度の紹介とミニセミナーを実施した。
- ・ **家電通信事業者**：直接のアプローチはできなかったものの家電業界や通信業界を含む企業の社員教育を担当する企業とのコネクションを持つ資格取得の教育事業者（TAC）を通じて間接的にアプローチができた。
- ・ **経営者層**：障害者雇用の新しいモデル確立を目指している大手企業 20 数社が参加する一般社団法人企業アクセシビリティ・コンソーシアムにコンタクトし情報共有をはかっている。

● DAA 啓発動画制作

- ・ DAA 認定制度を実施する背景と沿革、必要性を訴え、学習と受験を促進するビデオを

制作し 2024 年 10 月 18 日に公開した。

- DAA プロモーションビデオ

- ・ 精神的な疾患を発症し仕事からリタイヤした人の復職を支援する作業療法士の DAA 認定に至るストーリーをビデオにし、いわゆるグレーゾーンの生きづらさを抱える人をサポートする場面でも役立つ知識であることを訴えた。このビデオは、2025 年 1 月 30 日に公開した。

- 冊子制作

- ・ 展示会、研修会で配布する広報資料として制作し 2024 年 7 月 6 日に公開した。

- 展示会出展

- ・ バリアフリー展（大阪）、国際福祉機器展（東京）、作業療法学会（日本作業療法士協会、近畿、大阪、兵庫、東京、富山）にて広報をおこなった。

- DAA フォーラムの開催(10/24)

- ・ 2024 年 10 月 24 日に日本マイクロソフト本社を会場に、高等専門学校の JAPAN AT フォーラムとの連携イベントとして開催した。デジタル庁と日本作業療法士協会の 2 つの基調講演と DAA 認定者 11 名によるショートレポートでセミナーを構成した。参加者からは障害種も職種も多岐にわたり他では学べない貴重なイベントとなった。

2.教材と学習機会の拡充

■ 実績

(1) DAA セミナー

- a. 時期：2025 年 2 月（計 6 回）
- b. 場所：オンライン（オンデマンドセミナー）
- c. 参加者：受験希望者または認定者
- d. 内容：公式テキストからピックアップして講義形式で実施

(2) 公式テキスト、教材動画の改訂

- a. 時期：2025 年 3 月
- b. 内容：法律と OS のアップデートへの対応と電子書籍化

■ 実施した事業詳細

各 OS のメジャーアップデート時期が秋～冬なので情報を予測し準備をすすめた。時期こそ年越しとなったが、セミナーはオンデマンド講義をいつでも無料で 6 本のセミナーを受講できる。公式テキストは出版社と協議を重ね印刷書籍とフィックス型およびリフロー型の 2 種の電子書籍を発刊することができた。

● DAA セミナー

- ・ 「デジタルアクセシビリティを学ぶ～DAA 認定試験対策講座の 6 つの鍵～」という公式テキスト Basic レベル最新版に対応した試験対策ビデオ講座を 6 本制作し 2025 年 2 月 8 日に公開実施した。オンデマンドセミナーとして無料公開しているので、いつでも学ぶことができる。

<https://daa.ne.jp/info/archives/1939>

1. 障害を理解する (21m18s)
2. テクノロジーを理解する (30m28s)
3. 見ることに困難がある人のための標準アクセシビリティ (29m29s)
4. 聞くことに困難がある人のための標準アクセシビリティ (20m20s)
5. 動くことに困難がある人のための標準アクセシビリティ (29m12s)
6. OS 標準のアクセシビリティ機能に役立つ周辺機器を学ぶ (26m00s)

● 公式テキストと教材動画の改訂

- ・ 公式テキスト：
 - Basic レベルは、第 4 版を 2025 年 3 月 21 日に刊行した。おもな改訂は、「法律の改正」「OS のアップデート」に対応した。
 - Standard レベルも、第 2 版を同日に刊行した。改訂ポイントは Basic と同様。
 - Basic レベル、Standard レベルの印刷書籍刊行に加えて、電子書籍も同時に発刊した。
 - 電子書籍は、レイアウトが崩れず拡大をメインにしたフィックス型と拡大とともに音声読み上げを可能にしたリフロー型の 2 種類を制作した。

◇ フィックス型：シナノブックス

- Basic> <https://www.shinanobook.com/genre/book/5454>
- Standard> <https://www.shinanobook.com/genre/book/5455>

◇ リフロー型：Amazon Kindle

- Basic> <https://www.amazon.co.jp/dp/B0DZWHL4WX>
- Standard> <https://www.amazon.co.jp/dp/B0DZWG23KB>

- 公式テキストの改訂に合わせて、試験問題も 2025 年 7 月 1 日より改訂することとした。
- ・ 教材動画（ダイジェスト動画）：
 - Basic レベルは、計画では 4 本の改訂であったが、アップデート項目が多いため 12 本全てを改訂した。
 - Standard レベルは、12 本を新規作成した。
 - いずれの動画も 2025 年 1 月 16 日に Web コミュニティに無料公開した。

3.アクセシブルな試験システムの構築への助言

■ 実績

- (1) 時期：2024 年 4 月～2025 年 3 月
- (2) 内容：助言と当事者の派遣

■ 実施した事業詳細

DAA の試験は、多くの試験会場で受験できるように、日本で一番利用者が多い CBT（Computer Based Testing）プラットフォームを利用しているが、あらゆる障害者が受験できるようにそのプラットフォーム全体を改編することは、事業者とも協議を重ねたが、コスト高となり現実的ではないと判断した。そのため同事業者が模擬試験や学習度の理解を確認するために利用している簡易的なプラットフォームを改編し、視覚障害の当事者による検証を行い、操作に慣れは必要だが、音声のみでの操作・回答することが確認できた。

● 当事者

- ・ 日本障害者雇用担当者協議会のメンバーで大手民間企業にて就労している視覚障害者のコネクションから当事者グループである「視覚障害者就労相談人材バンク」と繋がることのできた。このメンバー 5 名に実際に模擬的に受験してもらい貴重な知見を得ることができ、問題点を洗い出せた。
 - 重度な弱視：Windows I/O、PC Talker、キーボードとマウスで操作
 - 中途失明の全盲：Windows I/O、PC-Talker、キーボードのみで操作
 - 先天性の全盲：Windows I/O、PC-Talker、キーボードのみで操作
 - 弱視：iPad、Safari、拡大で操作中
 - 途失明の全盲：Windows I/O、PC-Talker、キーボードのみで操作

● 検証結果

- ・ ログイン、科目選択、問題文、解答選択、試験結果について音声読み上げを利用しながら

らキーボード操作ができることは確認できたが、不慣れなため事前に詳細な操作の説明と操作練習をする必要があるということがわかった。

- 基本仕様策定

- ・ IBT システムを改編する。
- ・ 受験者は自分の PC などブラウザから試験サイトにアクセスして受験し、試験監督は Teams の画面共有でおこなう。
- ・ 利用者は視覚障がい者に限定。(肢体不自由など別の障がいをお持ちの方は、会場での受験もしくは別の在宅システムに誘導。)
- ・ 読み上げは受験者が用意したツール・ソフトウェアを使用。受験者の環境で読み上げができるかは、練習用サイトから事前にご確認いただく。

4. デジタルアクセシビリティ展開検討

- (1) 時期：2024 年 4 月～2025 年 3 月
- (2) 参加者：検討委員
- (3) 内容：Professional レベル認定マニュアル作成、海外資格との連携検討

■ 実施した事業詳細

特別支援教育における認定資格の認定基準や更新基準に精通しているメンバーを組織し、Professional レベル検討をおこない、認定規定案を作成した。

海外資格については、複数の資格を調査したが、資格者が一番多いと思われる RESNA（北米リハビリテーション工学協会）の Assistive Technology Professional Certification はエンジニアの資格者が多くターゲットが異なるなど、すぐに連携できる資格を確認することはできなかったが、継続して連携先を探していきたい。

- Professional レベル認定マニュアル作成

別紙「Professional レベル認定マニュアル（案）」参照

- 海外資格との連携検討

RESNA（北米リハビリテーション工学協会）の Assistive Technology Professional Certification（ATP）について検討した。

学習項目は以下のような単位であった。

- ・ AAC(Augmentative and Alternative Communication)

- ・ アクセス可能な交通機関
- ・ ADL(日常生活・日常生活活動支援)
- ・ 認知を支援する機器
- ・ コンピュータアクセス機器
- ・ eADL(日常生活へのデジタル機器)
- ・ 環境援助
- ・ 学習と学習を助ける機器
- ・ レクリエーションとレジャー
- ・ シーティングと姿勢と移動
- ・ 感覚(聴覚、視覚、肢体)を助ける機器および環境調整
- ・ 就労を助ける機器と環境調整

単元だけ見ると近い内容ではあるが、ATP は受験者も一定の基準（学位や職歴等）をクリアした者に限定され、エンジニアや教員やリハビリテーション職向けのかなり専門職向きの内容であった。一般に広く普及させたい DAA における Professional レベルは実践を評価し地域での指導的活動が見込める者なので、評価方法と対象者が異なり連携は難しいと判断した。

事業目標と結果

デジタルアクセシビリティアドバイザー (DAA) 認定者：Basic レベル 1 千 500 名、Standard レベル 150 名	未達成	・Basic レベル>395 名(達 成率 26%) ・ Standard レベル>91 名 (達成率 60%)
事業目的の 6 つの分野において、各団体内での 受験推奨の告知の実現	達成	
デジタルアクセシビリティフォーラム参加者 数：200 名	達成	341 名 (現地：46 名/オン ライン 295 名)
DAA セミナー開催数：6 回	達成	講義を収録しオンデマンド セミナーとして 6 本を配信
DAA セミナー参加者数：180 名	未達成	128 名
Basic レベル準拠教材動画改訂・公開：4 本	達成	アップデートが必要な箇所 を全ておこなった
Standard レベル準拠教材動画制作・公開：12 本	達成	

事業実施によって得られた成果

認定者の増加に向けて、短期目的に掲げた「高専学生」「作業療法士」「特別支援教育教員」「職場適応援助者」「家電・通信事業従事者」「経営層」6 つの領域へのアプローチを全体的に実施したが、特に、障害者雇用率の達成、合理的配慮の提供など社会的責務を果たすことに関心が強い民間企業の反応がよかった。個別の民間企業へのアプローチとともに、民間企業 38 社の実務担当者で構成される日本障害者雇用担当者協議会への働きかけにより、加盟企業から DAA に関する研修会の依頼が入るなどした。実際の社員や「職場適応援助者」(ジョブコーチ)の受験には、人事や総務の部門が社内のコンセンサスをとるのに時間が必要との声が多く、25 年度以降に、企業単位でのセミナー受講・受験の可能性が高いと感じている。

また、「作業療法士」については、日本作業療法士協会への働きかけにより、全国の会員 6 万 3 千名に宛てて DAA 認定事業の情報を周知するとともに、2 時間の特別研修会が実施で

きた。特別研修会の参加は約 100 名だったが、実施したことで、作業療法士と思われる人の受験者数が増えたとともに、いくつかの作業療法士の養成学校が公式テキストを数十冊まとめ買いしたり、来年度以降の授業のコマに加える動きも出て、作業療法士の業界での認知度は、非常に高めることができた。

また、当団体が、2025 年 4 月 1 日より「東京都障害者 IT 地域支援センター」の業務を東京都から受託し運営することとなった。この 2 年間、DAA について、国際福祉機器展やその他の活動において東京都福祉局や関係者と共にデジタル活用を支援する人材の育成について協議し、啓発イベントを企画・実行してきたからこそ、業務を受託する機会に恵まれたと考えており、2 年間、DAA の活動を助成事業として実施できたことに感謝したい。

今後もこのような成果を積み重ねてさらに横に広げていくことで、最終目的である既存のサービスに DAA が配属され、地域で気軽にデジタルに関する相談できる場所ができ、その結果、障害者・高齢者も含め誰もがデジタルの恩恵を受けられるようになっていくのだと考えている。

新たな課題と対応策

民間企業では、合理的配慮や障害に対する無理解が障害者の就労を妨げていると感じられた。「働きたいが困っている人」なのに「働けない困った人」のような認識の人が多いようです。

今後、DAA 認定者を輩出してだけでなく、基礎的な障害の捉え方や合理的な環境調整の方法を学べる機会をさまざまなイベントをとおして更に啓発していくことが必要であると考えております。一人でも多くの方が、障害者とは、障害を社会から感じている人であるとの認識に至るよう引き続き活動したいと思います。

謝辞

2 年にわたる本事業において、さまざまな形でご協力いただきました関係者の皆様、また事業の実施にご指導いただきましたし検討委員の皆様、そして、多大なる助成をいただきました日本財団様、ありがとうございました。事業開始当初では考えられなかった人脈や知見が得られ、それらが成果に繋がり充実した事業になったと感じています。得られた成果を基に更に拡大して参ります。重ねて御礼申し上げます。

2025 年 3 月 31 日
一般社団法人日本支援技術協会
東京都葛飾区立石 7-7-9